

日程	講座項目	講師 (敬称略)	時間
5/14 (土)	開講式・オリエンテーション 提供会員の役割と心得 保育の心 子どもの遊び	担当アドバイザー	9:20~
		秋山則子：三重県子どもNPOサポートセンター副理事長	9:30~
		堀川美子：育児支援アドバイザー	12:30~
		山野栄子：学校法人大橋学園短期大学設置準備室教員	14:45~
5/15 (日)	子どものけがの予防と応急処置 身体の発達と病気 会則・活動記録等の説明	富内直美：日赤十字社三重県支部看護師	9:30~
		花田 基：花田小児科院長	13:30~
		担当アドバイザー	16:30~
5/21 (土)	心の発達/障害について 子どもの栄養と食生活	千草篤麿：高田短期大学子ども学科学科長	9:30~
		馬場啓子：管理栄養士(元大学教授)	13:30~
5/22 (日)	小児看護の基礎知識 講座をふりかえって (グループで話し合い)	岡田まり：㈱ジェネラス訪問看護ステーションほたるいせ管理者 玉城町担当者	9:30~
		秋山則子：三重県子どもNPOサポートセンター副理事長	13:30~

ファミリーサポート提供会員の養成講座を毎年5町で順番に開催しています。28年度は玉城町が会場です。子どもが好き、子どもと関わる活動がしたいと思っている方は、是非この機会に受講してください。また、子育て中の方や、お孫さんを預かっている方も、子育てに役立つ基礎知識を学んでいただけますので、是非お申し込みください。(※依頼会員と提供会員を兼ねることもできます)

会 場：玉城町保健福祉会館(度会郡玉城町勝田 4876-1/TEL:0596-58-8000)

対 象 者：玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町・大台町内および近隣市町に在住する20歳以上の方で、受講後に提供会員として登録していただける方

募 集 人 員：30名(先着順)

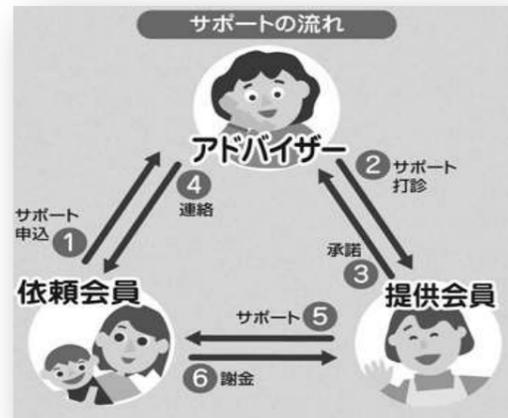
受 講 料：無料。ただし、テキスト代(2,500円)は受講者負担となります。

※講座日程のすべてを一度に受講できない方は、ご相談ください。

そ の 他：託児をご希望の方は、受講申し込み時にご相談ください。(無料)

主なサポートの流れ

- ・依頼会員は登録をします。(無料)
- ・アドバイザーと提供会員、依頼会員と子どもで事前打ち合わせをします。
- ・依頼会員は、センターに電話にて依頼します。
- ・アドバイザーが提供会員に連絡し、確認後実施されます。
- ・提供会員は、月締めで活動報告をまとめセンターまで提出します。
- *キャンセルの場合は、依頼会員から提供会員とセンターに速やかに連絡してください
- *サポート依頼は原則、センターの開設時間内に受け付けます。



お問い合わせは

みえ子育て支援・緊急サポートネットワーク

◆南勢志摩地域センター

玉 城 町 担当アドバイザー 池田千恵 地域サブリーダー 松井麻起子

度 会 町 担当アドバイザー 岩井圭子

大 紀 町 担当アドバイザー 鬼藤千代子

南伊勢町 担当アドバイザー 倉木紀子

TEL&FAX 0596-23-3938

〒516-0037 伊勢市岩瀨2丁目3番13号 NPO法人 三重みなみ子どもネットワーク内

◆多気郡地域センター

大 台 町 担当アドバイザー 塩谷明美・西村理沙

TEL&FAX 0598-22-1950

〒515-0084 松阪市日野町788 加3037 1階 特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター内



ほっとニュース

平成28年4月発行

発行：度会郡・大台町ファミリー・サポート・センター



「自然という宝物」

この地域には都会にはない自然という宝物があります。今回室内での交流会をしましたが、子育て支援センターの窓から見える風景を見て講師の山野先生と、素晴らしい所ですね、この中で遊べると楽しいでしょうね・・・とお話しました。

1月に「こどもこそミライ」という映画の上映会をし、この地域の方たちにも参加していただきました。その映画の中で、森の幼稚園という活動が紹介されていました。子どもたちは1日中自然の中で遊び、ケガをすることもあります。どうやら大きなケガにならないかを自分たちで考えていました。子どもは自然の中で遊ぶことで感性を磨き、生きる力をつけていきます。

また今回、初めて交流会を開催してみて、参加されたたくさんのお母さんと子どもたちが隣町の方たちと交流する姿を見て、この地域に流れている川や連なっている山々のように、大きな広がりを感じました。

大紀町・大台町・度会町・南伊勢町・玉城町の子どもたちは、自然の中でいっぱい遊び、大きく育っていくことと思います。そんな子どもたちを地域のいろいろな人が見守りサポートしていく。これからも、ファミリーサポート事業を通して地域づくりをしていきたいと思っています。

(秋山)

地域別会員数
&活動件数
(平成28年3月末現在)

地域	依頼会員	提供会員	両方会員	会員数合計	活動件数
玉城町	112	52	7	171	134
南伊勢町	11	12	1	24	3
大紀町	13	27	1	41	0
度会町	25	13	2	40	5
大台町	53	47	8	108	1
合計	214	151	19	384	143

- 保育施設の開始時や終了後の子どもの預かり・・・50回
- 保育施設等までの送迎・・・59回
- 放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり・・・0回
- 学校の放課後の子どもの預かり・・・0回
- 冠婚葬祭や兄弟の学校行事の際の子どもの預かり・・・6回
- 買い物等外出の際の子どもの預かり・・・1回
- その他・・・25回
- 病児・病後児の預かり・・・0回
- 宿泊を伴う預かり・・・0回
- その他(早朝・夜間等の緊急時の預かりなど)・・・2回
- 上記に伴う保育施設、病児・病後児保育施設自宅間の送迎・・・0回



子育てQ&A 離乳食編

子どもは一人ひとり個性があり、発育・発達も個人差が大きいものです。親の思った通りにいかないことがいっぱいあります。育ってくるのをあせらずに待ち『はぐくむ』ことが大切です。子どもも親も一緒に育っていくのが育児です。はじめからうまくいかないのが当たり前。だって・・・はじめて同士だもの！

Q

いつ？何を？どれくらい？



なめらかにすりつぶした粥1さじからスタートします。時期は5~6ヶ月が目安ですが、遅くとも7ヶ月前には開始。赤ちゃんの消化能力や未熟な内臓に負担をかけないように与え始めの順序、時期、量に注意！離乳の進め方の目安を参考に、発達の時期に応じた固さと大きさに気をつけて、多くの食品を体験し徐々に食べる力が高まるように工夫しましょう。

パパとママの食べるの見てるとよだれがでちゃうよ！

野菜は食べにくいよ！！のみこめないよ！！

昨日は食べたくなかったけど今日は食べてみようかな...

固いものや大きいものはお腹がびっくりするの(びっくりして飲みこんでしまいそう)

お肉は細かく切ってね

加熱して細かくしてね



Q

はじめての食材を与える時ってアレルギーが心配だわ...



午前中に与えて様子を見て、異変があれば午後を受診できて安心です

赤ちゃんの消化能力や食品の種類、調理のし方や量に気を付けなければいけません。赤ちゃんが受け入れやすい食品を1日1さじからスタートし、赤ちゃんの様子(肌・便・機嫌)を観察し問題がなければ1日1さじくらいずつゆっくり増やしていきましょう。離乳の開始に、すりつぶし粥からスタートするのは、お米などのでんぷんは消化されやすく、アレルギーを起こす可能性が少ない食品だからです。日本におけるアレルギーの原因食物は、鶏卵、乳製品、小麦が多いですが、診断と治療は専門医のもとで行い、素人判断で勝手に除去をしないように注意しましょう。安易に必要以上除去すると発育・発達に弊害が生じる危険性があります。アレルギーを恐れるばかりに食べさせることが可能な食品の幅を狭めてしまうのは残念なことです。アレルギーのほとんどは年齢を経るごとに耐性ができ食べられるようになり、一生除去が続くとは限りません。専門医の指示に従うことが大切です。

❖今回は提供会員養成講座で「子どもの栄養と食生活」をご講義いただいている馬場啓子先生にお答えいただきました。Q&Aコーナーは今後シリーズにして会員向けニュースでお送りします。お楽しみに！詳しい内容をお知りになりたい方は5月14日(土)から始まります「提供会員養成講座」にぜひご参加ください。

平成27年度提供会員養成講座

■平成27年5月30日(土)・31日(日)・6月6日(土)・6月7日(日)
■大紀町コンベンションホール ■参加者16名

今回の受講者の内、大紀町8名、玉城町3名の方が登録され提供会員として協力していただいています。ファミリーサポート事業の提供会員として、子どもを預かるサポートをして頂くための養成講座ではありますが、子育て中の方や、これからお孫さんを預かる予定の方、子育て関係に関わっている方に聞いていただきました。現在の子育て状況や、お母さんの気持ち、子どもの気持ちを知って頂いて、ちょっとした声かけをしていただくと、お母さんもほっとします。そして子どもも皆さんの温かい対応に微笑とパワーを返してくれると思います。より多くの方に養成講座を聞いていただき、子育てを支えて頂ける人を増やしていきたいと思っています。今年度も是非多くの方に参加していただきたいと思っています。28年度は5月14日・15日・21日・22日に玉城町で開催します。

アドバイザー - 倉木紀子

平成27年度交流会・研修会

■平成28年2月21日(日)
■度会会場(度会町子育て支援センター)10:00~12:00 ■参加者大人13名 子ども16名
■大台会場(大台町子育て支援センター)14:00~16:00 ■参加者大人18名 子ども11名
■講師：鈴鹿大学短期大学部特任准教授 山野栄子先生



第1部ではおもちゃを作りました。紙皿2枚にそれぞれ絵を書き、切りこみを入れて2枚を重ねて回すと絵が変わっていく紙皿シアターと牛乳パックを開き、まん中にペットボトルのキャップをつけてコマを作りました。提供会員が依頼会員と子どもと同じテーブルで作ったことで、助け合ったり、交流することができました。紙皿シアターは、子どもたちが自分の作ったものを発表し、その柔軟な発想に大人は驚き感動しました。

第2部では子どもたちは別の部屋で遊び、大人は子どもの育ちにおける遊びについて山野先生の講義を聞きました。子育て中の依頼会員からは、「今大切なことは何かということを知ることができた」という声が多く聞かれました。毎年提供会員養成講座での参加者は提供会員になろうとする方がほとんどですが、依頼会員にも積極的に講座を勧めていこうと思います。

アドバイザー - 塩谷明美



平成27年度ファミリー・サポート・ネットワーク 全国アドバイザー講習会・交流会(大阪会場)

■平成27年10月1日(木)10:00~17:00
■ホテル大阪ベイタワー ■参加者1名

テーマ「発達障害のある子どもの援助活動の基本」

発達障害とは、生まれつきの脳の機能の違いによる能力の偏りによる障害で、親の育て方や環境によるものではありません。全国のファミサポ活動実態調査結果から、全国のセンターの8割が障害をもつ子どもの援助を実施していて、援助の内容では「送迎」が多く、預かる子どもの障害は「自閉症スペクトラム障害」「知的発達障害」「ADHD」で全体の8割になり、小学校低学年が約6割だということです。

子どものこだわり・かんしゃく・他害・自傷などの外から見える行動に対応するのではなく、「なぜ、その行動が起きるのか」という視点から対応することが大切だということです。例えば、提供会員の出したお茶を「まずい」と言って飲まないA君がいたとします。A君は家のお茶しか飲めない子だったので、「このお茶、味が違う」「いつもの味がいい」「家のお茶が飲みたい」という思いが「まずい」という言葉に出たと考えられます。しかし、「まずい」に反応してしまうと、A君の気持ちは理解できず、違う対応になってしまいます。子どもの行動には必ず理由があるので、指示・命令・禁止の声かけを具体的・視覚的・肯定的な表現に変換して試みる必要があるのだそうです。また、親を理解することも大切で、障害のある子どもをもつストレスや、障害を受けとめることにも気持ちが揺らぎます。

アドバイザーとしてその子どもに合った援助をするために、入会面談やマッチングで、丁寧に家での子どもの様子を聞いたり、実際に子どもをよく見ること、親とよく話し合うことが大切だと思いました。

アドバイザー - 塩谷明美